

わたしの好きな よりの

No.150



酒巻光子さん
(本町)

思いがけず栗を拾いました。そこは、鉢形城公園です。鉢形城のボランティアガイドをしている関係で、折にふれ鉢形城歴史館とその周辺の史跡公園を歩きます。

春、周囲の樹木が芽吹き、輝く季節。寄居町で一番早く咲くという樹齢150年のエドヒガン桜。そして、カタクリ。夏、緑陰の下、深沢川の溪流。秋、吹きわたる風に赤トンボ。イタヤカエデの紅葉。冬、枯葉踏んで眺める大きな裸木。大きな空の下、広い空間。遠景の山々。荒川の流れと町並みが眼下に。いつ来ても頭すっきり、気分爽快な眺め。

景観の中にたたく歴史館に入ってみると、戦国時代の重厚なやぐら門がお出迎え。最も整備された姿を想定した鉢形城全体の復元模型が目を引き。常設展の一角には、発掘された中国産の「景德鎮」の磁器。

現代に生きる私たちにつながる歴史の発信基地・鉢形城歴史館。皆さんもぜひ、お出かけになってみてはいかがでしょうか？



<歴史の発信基地～鉢形城歴史館～>



わが町の 達人 No.19 カウンセリングの達人



永嶋かほるさん (常木)

私がカウンセリングの必要性を痛感することになった理由は、30年ほど前、「登校を渋っている子がいるので家庭訪問してください」という上司の一声で、ある女の子とかかわるようになったことがきっかけです。

彼女は、朝になると「お腹が痛い」と言い、学校を欠席する日ができ

このコーナーは、「寄居生活学の達人」として町に登録をいただいている町民講師の方々を中心に、そのうちや技術、体験などを町民の皆さんに紹介するコーナーです。

ました。今でこそ、子どもたちの欠席理由は多様であり、組織的に対応し、連携プレーで解決していきませんが、その頃は、家庭・学校とも原因は何なのかと探る毎日でした。

「配慮を要する児童」と向き合う中で、すべての児童に予防的対応をすることで何か保健室から手助けできるのではないかと、「カウンセラー養成上級研修会」の受講をはじめ、日本学校教育カウンセラー学会等で、研修を積み現在に至っています。今まで、数多くのケースと向き合ってきましたが、現在では組織的に早期対応することができるようになりました。

寄居町では、十数年前に保護者や一般の方を対象とした公民館講座、



「子育てに活かすカウンセリング」が開かれ、講師を依頼されました。「仲間づくりはどうやるの？」について、今の子どもたちの様子をお話しし、人間関係づくりについて学び合いました。公民館の講座としては画期的なことで、NHKが取材し、ビデオを製作してくれました。この講座は今も続いています。

今、学校生活でみられる諸問題は人間関係のトラブルに起因しているものが多く、人間関係づくりがとても大切です。コミュニケーション（言語・非言語）をとりながら、笑ったり悔しがったりする交流を通して、協力・活動ができることが必要なのです。教育課題の中に、社会性を育てるスキル教育を導入する学校が増えてきました。私もその研修を積んでいますが、今後も子どもたちに寄り添い歩んでいきたいと考えます。

